

平成15年度第5回岡山市総合政策審議会

保健・福祉部会における主要な意見

- 1 日時 平成15年12月25日(木) 13:30~15:00
- 2 場所 保健福祉会館 9階大会議室
- 3 出席者 別紙委員名簿参照(10名出席)
- 4 傍聴者 1名
- 5 会議の概要 岡山市子育てアクションプラン(仮称)についてご審議いただいた。
- 6 主要な意見

<子育ての現状について>

若い親は子どもを叱る時、他人のせいにしがち。また、叱るだけでなく、止めさせるとか、どうすれば子どもにそれが身につくかなど、もう一歩手をかけて教えることが少ない。

少子化で甘やかした子育てになりがち。ネグレクト(育児放棄)も問題だが、甘やかしもある意味では同質的。

就学前の家庭教育が十分でないため、学校で個人のしつけをしなければならず、集団での社会性を養成できる状況でない。

仕事と家庭の両立のため、保育サービス、放課後児童クラブが充実することにより、親が責任感や感謝の気持ちをなくしていくことが心配。

昔は近所の子どもを皆で育て、叱ったが、今は親から逆にやり返されるのではないかと我慢している。

地域で介護力や子育て力をどうつくっていくか、地域コミュニティの再構築をどう進めていくかが課題。

子育ては地域、家庭が大事だが、保育所、幼稚園、学校の一層の努力が必要。

開かれた学校づくりについては、地域の人の受け入れ方について学校間格差がある。地域活力、人材活用ができてないところが多いので、学校関係者に対して呼びかけが必要。

<児童虐待について>

親の育児放棄が問題で、地域、学校も中に入れない現状がある。支援策が必要。

ネグレクトと慢性的な心理的虐待が多く見られ、子どもが成長したとき一番悪い影響がある。

児童虐待は、虐待する親と誘発しやすい子ども双方に問題があるが、虐待する親は社会的欠陥がある場合が多く、半数程度は親自身が障害を持っている。社会的ハンディを持つ人が、人格の成熟や責任を果たせるよう教えるシステムが必要。地域のサポート体制が圧倒的に貧困。

虐待する親の半数は社会的ハンディを持つ人という認識は、障害者は子育てが十分できないような誤解を生むおそれがある。

子育てに困った時のサポートが虐待の防止につながるので、支援制度のPRが重要。

児童虐待は犯罪という自覚が社会全体にない。人を大切にしない、自分さえよければという考えの人が増えている。

社会の負の部分、厳しい現実を見据え、具体的に岡山市として何ができるかを考えるべき。特に子ども虐待防止ネットワークの拡充・強化を緊急に。

<子育て支援事業・課題について>

母子手帳をもらう時や妊娠中の健診時等の親としての自覚が高まっている時に、児童虐待等の子育て教室を。

子育て教室等に声をかけても来ない人への対策を重点的に取り組むべき。

慢性疾患の子を持つ親への子育て支援が必要。

地域の子育て支援ボランティア希望者の結集・活用が課題。

子育ては地域みんなで関わるのが大事で、その中心に学校がならないとうまく進まない。学校ボランティア登録者がもっと活躍できる方法を考えるべき。

市行政の子育て専門職、保健師、保育士、幼稚園教諭等を動員し、地域資源を活用して支援策を。サロンのような、人が集い、助け合いや楽しく活動する雰囲気のある場所を地域につくり、親を孤立させない方策を。

児童クラブを希望する児童すべてを受け入れできる体制に。

子育ての社会化といっても、子どもは一对一の愛情を求めており、小さい時の親子関係ができていないことで問題が起こる。子育てしやすい労働環境を築き、親が子育てにもっと関わられるようにするべき。

少子化に歯止めをかけるには、労働環境を抜本的に見直し、女性のライフサイクルと子育てと仕事が両立する新しい仕組みが必要。岡山市としてユニークな試みを。

政府や岡山市が抜本的見直しなしに既存施策の微調整程度で実効ある子育てプランは難しい。岡山市がモデルになる覚悟でプラン策定を。

新規事業のひとり親家庭日常生活支援事業を評価したい。

子どもの権利の尊重として、子どもの意見を聞く場面がほしい。

<プラン成文について>

人間として必要な育ち方は何なのかを「理念」の中に盛り込んでほしい。

親・家庭はよりよい子育てのために“全力を尽くす”というより“じっくり取り組みます”として肩から力を抜いたほうがいい。

親・家庭・地域など、その役割をもっと詳しく具体的に書いた方がいい。人権や善悪についてきちっと指導すること。“全力を尽くす”の表現でいい。

子どもは自ら育つ力を持っているが、放っておくと方向を間違うから助けて育てていかなければならず、助けるには親は根気強さや忍耐が必要であり、子育ては、育つ、育てる、育ち合うと言われている。子育てで親が育つことを前面に出したプランを。

地域は、子どもの悪いことを見張るのでなく、豊かな人間性や社会性を身につけるためのところなので、健全育成は家庭の役割とすべき。

学校が子どもの何もかもを抱えるのは限界がある。豊かな人間性や社会性を本当に学校が教えられるのか。

“輝く子どもの笑顔”は子どもの天性であり、めざす姿、「理念」ではない。子どもも社会人として年齢にふさわしい発達や成熟していくことの位置づけが必要。人に優しい、頑張る等の社会性を子どもの時に身につけなければ大人になれないのだから、めざす姿は“きらきら にこにこ いきいき”ではなく、こちらが期待する姿を出してはどうか。

理念の“子どもきらきら 家族にこにこ 地域いきいき”は願いが込められたスローガンだからこれでいい。

子どもも社会的な存在で、家庭が地域、学校、事業者と関わりながら社会の中で存在しているという意味で、同心円モデルが欲しい。

<プラン策定方法>

子育て中の人意見を十分聞いてほしい。

午後2時57分 閉会